

第 26 回 かたの環境を考える委員会

概要

- ・ 日時：2011 年 10 月 17 日（月） 18:30～21:30
- ・ 場所：交野市役所 別館 3 階中会議室
- ・ テーマ：（全体会）中間案発表会について、総合ビジョンについて
（作業班）中間案発表会の準備
（グループワーク）プロジェクト立案、ビジョン作成、発表準備

進行・内容

- 18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。
- 18:32 全体ガイダンスとロードマップ確認。
- 18:36 作業班ごとに中間案発表会についての相談。
- 19:15 作業班からの連絡事項を発表し、共有。
- 19:35 中間案発表会の役割分担の決定。
- 19:45 総合ビジョンについての説明。



- ・ 環境基本計画の総合ビジョンは 10 年後の交野市の環境の将来像である。必要な 4 分野(4 グループ)のビジョンが合わさったものが総合ビジョンにもなりうる。
- ・ 他の市（碧南市、津山市、生駒市、野洲市、長岡京市）の総合ビジョンを紹介し、自分のまちを大事にしたい特性を言葉で具体的に示し、交野ならではの言葉が入った夢を描くことを提示した。
- ・ 委員より交野の特性を言葉で出した。以下のキーワードをヒントにして、ビジョンを自由に作成する。考えられる人は、次回の会議までに考えたものを交野市環境保全課に提出。

【委員より出されたキーワード】

自然が豊か・里山・交野山・天野川・磐船神社・織姫伝説・星のまち・星のブランコ・山ナリエ・交野桜・桜と紅葉・ホテル・とかいなか・おいしい水・観光・農地がたくさん・地元の農産物・和・うるおい・みんな活・汗と頭とあるもの・8 万人が輝くまち・よい環境・次世代につなげたい環境・空気の澄んだまち・美しくやさしく楽しいまち・情（こころ）のかよう人にやさしいまち・あかるいまちかたの・住み続けたいまちかたの・環境にやさしいまちかたの

- 20:20 全体で取り組む仲間づくりのプロジェクトについて提案があり、了承された。
- ・ 4 グループが一緒になって共通に取り組むプロジェクトとして、環境教育のプロジェクトを提案。一般啓発、仲間作り、担い手を育てることを目的としたプロジェクトとして位置づけ、各プロジェクトが動いていく源泉にもなるのではないかと提起された。

- ・ プロジェクトの原型はエコ生活グループから出されたプロジェクト案「かたのエコ良人(ろじん)」。 「環境啓発と環境活動の担い手づくり」という副題をいれて、わかりやすいタイトルにしようという意見が世話人会で出た。

20 : 40 グループワーク

プロジェクトの内容を詰め、発表スタイルと内容の決定をおこなった。

21 : 30 終了

世話人会での議論の詳細

1.全体で取り組む仲間づくりのプロジェクトについて

来年の4月以降、4つのグループが一緒になり取り組むプロジェクトとして、環境教育のプロジェクトが提案された。

- ・ 一般啓発、仲間作り、担い手を育てるプロジェクトとして位置づけ、得た仲間や担い手を各プロジェクトに巻き込んでいく形にできればよい。各グループのプロジェクトは平行して進めていく。
- ・ プロジェクトの原型はエコ生活グループから出ている「かたのエコ良人(ろじん)」案とし、エコ生活に関係することだけでなく、いろいろな内容を盛り込んで改訂する。
- ・ 環境教育については、各グループがプロジェクトを考える中で、共通する項目とし出していた。新しい仲間や環境啓発が必要なのは各グループに共通する事項であるので、みんなで進めていくと効率がいいのではないか。

(議論)

Q:自分たちが考えているプロジェクトと、市の他の課で進めているプロジェクトとの関連はどうするのか。統廃合もあるのか?

A:プロジェクトの実行主体については、プロジェクトに関係しそうな課や団体を整理し、重なるところとは整合性をとっていく。

Q:来年の4月以降、本委員会の委員の立場はどうなるのか?

A:現在、こんな交野にしたいという思いを持って環境基本計画を考えてくれた方が、来年以降も環境基本計画の推進メンバーとなっていただきたい。計画を推進させていく組織が必要となるので、推進組織設立準備会の委員になっていただきたい。

(意見)

- ・ プロジェクトのタイトルがわかりにくいので、タイトルを見てイメージがわくような活動名にしてはどうか。
- ・ 誰でも環境にやさしい人になれるように「誰でもエコろじん」を考え、環境マイスターという副題をつけていたが、交野らしくなるように、「かたのエコろじん」に改訂した。このタイトルを見て、どんな活動だろうと思って活動に参加してくる人もいないのではないか。
- ・ 環境啓発と環境活動担い手づくりを副題としてつけることで、わかりやすくなるのではないか。

共通して取り組むプロジェクトとして共通認識をもったので、全体会ではかる。



2.分野ごとのビジョン(グループビジョン)の形式について

- ・ 各グループでビジョンを考えているが、形式が統一されていないため統一する。一文で表したあと、内容を示す文章が続くような形式にする。

3.本日の作業班とグループワークでする内容について

<作業班>：今日の記録を終了後南村に渡す。次回委員会までに確定し、全体に配布する資料や告知すべき事項はメール等で連絡する。

<グループ>：中間案発表会の発表方法と内容の大枠決定。展示の有無の決定。発表会資料原稿の〆切確認(10/31)。意見交換会の司会と希望者はワークショップ特別講座を受講(11/1)。それぞれ世話人が、各班・グループのメンバーに伝える。

中間案発表会について作業班での議論の詳細

企画班

- ・ 中間案発表会当日のタイムスケジュールを見直し、市長挨拶と市による「環境基本計画とは」の内容に重複がないよう調整の必要性がある。場合によっては「環境基本計画とは」の項目を、市長挨拶に含める可能性がある。
- ・ 前回までにタイムスケジュールの大枠と意見交換会についての企画を終えているため、これ以降は取りまとめと調整が企画の仕事となるが、作業を行なえる委員がいないため、解散して他の班に合流することとなる。途中から入りにくいという意見。企画として発表会当日の台本を書くなどの仕事があるのではないか。作業はできない。では解散か。(意見はまとまらず)
- ・ 他班からの要請

資料班 最後のお願いやメンバー募集の呼びかけ文書作成のお願い。

会場班 できるだけたくさんの方に設営を手伝ってほしい。

会場運営班

各グループの発表に必要なものは各グループで準備すること

- ・ 当日(前日)準備を手伝ってくれる人を募集する(出欠確認をする)
- ・ 横断幕の制作 11月9日(水)10:00から
タイトル「交野市環境基本計画中間発表会 (小字)
みんなで語ろう“かたの”のあした」(大字)
(デザインは次回までに決定する)
- ・ 場面転換について：プロジェクターで机の配置図を映して説明
- ・ 場面B(各グループ発表) 場面C(意見交換会)への転換：あらかじめ机にA-Dの印をつけておき、Cに転換する際、同じ印の机4台ずつを合わせて島をつくる。
- ・ 場面A(開会挨拶、趣旨説明) 場面Bに転換する際の演台の移動担当
- ・ 机：中会議室25台(場面AとB 4×6=24) / 受付は小会議室の机を使用



- ・ 椅子：中会議室 80-90 脚
- ・ 11 月 9 日手伝える人は協力をお願いしたい。
- ・ 11 月 26 日の発表会は、交野市で開催するので、準備時間は早めに設定する。12 月 4 日は、施設に入れる時間が決まっているので、12：40 厳守。
- ・ 総合司会と相談して場面転換の指示のやり方を決める。

広報班

- ・ チラシ配布の協力依頼

日時：11 月 16 日（水）または予備日 17 日（木）7:30-8:30

場所：JR 星田（4 人）500 枚

JR 河内磐船（4 人）400 枚

京阪私市（3 人）200 枚

京阪河内森（4 人）300 枚

京阪交野市（5 人）800 枚

京阪郡津（5 人）500 枚

計（広報班 7～8 人 + あと 18 人）27,000 枚

目印：腕章を使う（他のものを転用または紙製で手作りしホチキス留め）

- ・ 中間案発表会の趣旨の原稿

ちらしの文言を転用 資料作成班へ渡す

- ・ 11 月区長会への出席依頼

- ・ 広報先メディア

市広報 市役所 2 階 情報課

新聞 4 大紙（枚方記者クラブ、共同通信本社、読売新聞本社、毎日新聞本社、河北新聞社）

ミニコミ・フリーペーパー（サンケイリビング新聞社、マイライフ、まみたん、

ぱど(株)エルネット、あさすぼ、織姫ねっと）

掲示板（まみたん、ぱど、SUMO）

高校（交野、四条畷、寝屋川、枚方、枚方津田、枚方なぎさ、磯島、牧野、大阪市立、香里ヶ丘）

大学（同志社大学京田辺校学生支援課学生支援係・支援課課外活動・広報課(今出川)）

資料作成班

- ・ 問題、課題、評価基準を追加した改訂フォーマットをグループ担当者に送る。

- ・ プロジェクトフォーマットの原稿提出締め切り：10 月 31 日。

- ・ スケジュール

11 月 1、2、4、7 日：原稿確認作業

11 月 8 日 14:00～：資料班作業部会

11月14日：委員会で仮印刷の冊子を各グループに渡す

・ 構成

1. 表紙：作成完了

2. 目次・内容

(1) はじめに：環境基本計画中間案発表会（広報班）、全体ビジョン

(2) 経緯（市）

(3) 各グループのビジョンとプロジェクト

(4) お願いとお誘い、ご意見欄

3. プロジェクトシート

丸ゴシック 12-14 ポイント、A4 / 1 枚に収まるように

4. グループビジョン

1 ページ分 各グループにお任せする

最後のページはご意見欄とし、取り外して提出してもらう

グループ議論の詳細

【エネルギーグループ】

1. プロジェクトの精査

星のまち エコドライブプロジェクト

前回のグループ議論を受けて、費用や人材について修正されたバージョン3が出された。

- ・ エコドライブ実践ステッカーは交野のゆるキャラ（おりひめちゃんとあまんくん）を活用して作り、予算は市の予算やエコドライブ協力企業の協力金で検討。
- ・ 資源エネルギー庁の支援制度を活用し、人材育成も検討。

（出された意見）

- ・ 第1段階での、ガソリン家計簿のデータ提供などはハードルが高めなので、実際には、ステッカー制作を先に実施していくなど、運営がやりやすいところから実行して行く方がいいのではないかと。
- ・ プロジェクトの対象「誰に」のところは、市民の他、「従業員」という表記を、企業や個人商店も含む「事業者」にする。
- ・ 市は、推進するかかわり方と、事業者として関わる両方の立場があるのでは。
- ・ エコドライブ体験会の体験者全員にガソリン家計簿を提供してもらうのは、難しいのではないかと。企業は、距離とガソリンの使用量が把握できると思う。
- ・ 運転のシミュレーターを活用するのはどうか。

意見を反映させ、評価の基準をいれたバージョン3を出し、中間発表会で意見をもらう。改訂版作成と平行して、プロジェクトフォーマットも仕上げていく。



風を活かしたまちづくり

誰でも楽しく省エネできるような目的で第1段階から第3段階まで考えた。

第1段階：交野のまちのなかで冷暖房を使わずに、快適に過ごせる場所「天然の涼み処」を探す。市内のクールスポットやウォームスポット、風の通り道を探し、天然の涼み処に指定。

見つけた涼み処にベンチを置く 風の通り道 MAP の作成、配布。

第2段階：家で涼しく過ごす工夫やエコハウスに関する助成金の情報を提供

第3段階：第1、第2段階の結果や取り組みをまちづくりに活かす。例) スマートハウスを増やすための仕組みづくり等。

(出された意見)

- ・ 第1段階の「天然の涼み処(陽だまり処)」を探す対象について、市民ホールや図書館なども涼みどころとして考えられるのではないかな。
- ・ ヒートアイランドマップは既にあるので、大学の研究と連携しながら進めていくことができるのではないかな。
- ・ 打ち水やミストなども涼しくなる効果があるだろう。
- ・ 第3段階のまちづくりに活かす展開までは、無理にプロジェクトに組み込まなくてもいいのではないかな。

意見を反映させ、バージョン3を出す。平行して、プロジェクトフォーマットにも記入。

2. 中間案発表会の内容

発表方法

パワーポイント、クイズ形式(参加型で会場とのやりとりをいれる) 実演が案として出された。そらいけソーラープロジェクトをメインに、発表の流れを考える。

発表会での展示の有無について

大阪ガス、関西電力の方からパネルと粗品を用意。(パネル使用は1枚ずつ計2枚)

プロジェクトフォーマットの記入者の決定

全体ビジョンの考案について:全体会でだされたキーワードを参考に全体ビジョンを考えてくる。

11/1のワークショップ参加メンバー

次回の予定:

- ・「風を活かしたまちづくり」プロジェクトと、「星のまち エコドライブ」の改訂版(バージョン3)にそって、プロジェクトを検討する。
- ・ 中間発表会での発表の流れについて、出された案をもとに構成や役割を検討する。

【エコ生活グループ】



1. 展示の有無について：有

- ・生ごみ堆肥化セット、説明文 2 枚
- ・とかいなかライフプラザのイラスト、解説
- ・3D 花の写真

2. 発表方法と内容

発表方法

- ・寸劇
- ・ペプサートで事前にビデオをとる

発表内容

- ・プロジェクトをいくつか盛り込んだ、とある人物の一日

3. プロジェクトの検討

とかいなかライフプラザ

- ・個人に応じた生ゴミ堆肥をやってみた人が語り合えるコミュニティカフェを開店し、焼却量を減らして農産物の増産と販売に寄与する仕組みを考えていく場を作る。
- ・内容は詳細まで決めずに、構想だけを書き、“こんなんしたいんですけど、誰か一緒にしませんか” という投げかけのプロジェクトにしたい。

Q：このプロジェクトは生ゴミ堆肥化プロジェクトが進展してから開始するか？

A：同時に実行したい。学習、実行している人の語り合いの場、相談コーナーにしたい。

Q：生ゴミ以外の交流も可能？

A：食と農に限定したい。

Q：生ゴミ堆肥化プロジェクトに記載されている“道の駅”を“とかいなかライフプラザ”にするのはどうか？

A：O.K。環境だけでなく観光スポットになればいいと思う。

- ・次回までに

メンバー募集をどのように行うか。

このプロジェクトを進めていくのにどのようなステップを踏むか、具体的に考える。

評価の推進メンバーと賛同メンバーの違いがわからないので、違いを記載する。

宿題：次回までに

各人が考えてきたプロジェクトに対して、コメントを送りあう。今週中は現在使用している企画考案シートを使用し、できるだけ詳細に書く。

来週以降は、資料作成班が作成した、様式に合うよう、中身を省略して記載、10月29日までに送付。但し、ファックスの方はもう少し早めに。

各人が考えたプロジェクトとかたのサイズをめざす像（82 項目）との関連を考える。番号をプロジェクトシートのビジョンの横に記載
グループビジョンの確認を行う。



【まちづくりグループ】

1. プロジェクトについての意見交換

マナーを守って自転車に乗ろう！

- ・ 活動名を「自転車事故ゼロとマナー向上大作戦」と改めた。
- ・ 評価の基準を、「マナーが良くなり、自転車事故が今の 20%以下になっている。」とする。

自転車を利用しやすいまち交野にしよう！

- ・ 報告会・発表会の開催で、関心のある人・賛同者を集める プロジェクト実施。
- ・ 評価の基準を、「自転車で誰もが走りやすい環境、自転車が多くの人の第一の移動手段になっている」とする。

（参考）

市内 15 箇所ある市営の自転車置き場では、7429 台が駐輪可能。現在は 2600 台の契約が成立している。人気のある駅では抽選倍率も高い。

2. 中間案発表会の発表方法と内容、展示について

- ・ 発表では、ステージに机と椅子を設置し、グループメンバー全員が座って、プロジェクトの内容を口頭で説明する。今のところマイク以外機材の使用はない予定だが、もし使用としてもプロジェクター程度。
- ・ 展示については、やる方向で 11/14 までに内容を検討する。

3. 中間案発表会当日の事前準備出欠について

4. 次回打ち合わせについて

今日話し合ったプロジェクト以外については、まだ修正中なので、次回委員会までに一度集まる日を設けることとなった。

宿題：

- ・ 次回打ち合わせまでに、プロジェクトの修正案を仕上げ、メンバーから意見をもらえる状態にしておく。
- ・ 資料フォームは代表者が受け取り、全員に送付、できれば次回打ち合わせまでに記入を済ませておく。

- ・ 総合ビジョンについて、まちづくりグループでは、全員が考えてくる。
次回は中間案発表会の発表と意見交換会の準備作業、展示物の作成について検討する。

【自然環境保全グループ】

1. 中間案発表会での展示

交野市内の里山や川の写真を展示する。写真はメンバーが撮りに行ったり、活動している人にもらったりする。

展示の詳しい企画は各自で考えてくる。



2. 中間案発表会での発表

プロジェクターを使って、写真などを見せながらプロジェクトを紹介する。

詳しくは次回のグループワークで決めるので、どのようにしたいか各自で考えてくる。

3. 川の環境保全プロジェクトについての意見交換

ここまでの議論をまとめたたたき台のシートをもとに、川のプロジェクトについて議論した。

< 出た意見 >

- ・ 天野川は側面がコンクリートで底面は土
- ・ 交野の川の幅は狭く、蛇行させるなどの余地が少ない
- ・ 夏場は農業に水をとられている
- ・ 少ない水量の川底を透水性にすると水が枯れてしまう
- ・ 源氏の滝や月輪の滝など、水が少なくなっている
- ・ 水は上流から少ないので、上流の森を涵養する必要がある
- ・ 山の土地は花崗岩、砂地のため保水が難しい。チップをまく、植林するなど必要
- ・ この川は生きものの棲みやすい川、この川は雨水を速やかに流す川など、川ごとに理想の姿を考えるのは大事
- ・ 人口が増えると川は汚れる。理想像が高すぎ、目標達成が難しいのではないか
- ・ 将来のビジョンなので、理想は高く持った方がいい

< 結論 >

- ・ ビジョン：ハヤ、サワガニ、カワセミなどの生きものが棲みやすく、子どもが泳げるくらい澄んだ水が豊富に流れ、市民が憩える川となっている
- ・ 活動名：豊かな川づくりプロジェクト
- ・ 内容：たたき台の1に「水質調査」を追加。3から「透水性舗装の導入、透水性のある川にす

る」を削除

- ・活動の期間：2012年から2021年まで
- ・評価の基準：水質、生息する生物の種類と数

4. 自然環境保全グループのプロジェクト

当グループのプロジェクトは以下の4本とすることに決定した。

- (1) 里山を知ろう・里山大好きプロジェクト
- (2) 里山保全活動を実践するプロジェクト
- (3) 里山の持ち主と活動団体を結ぶプロジェクト
- (4) 豊かな川づくりプロジェクト

5. 役割分担の確認

- ・中間案発表会の資料原稿作成
- ・意見交換会
- ・中間案発表会当日の参加予定メンバー

次回の予定：中間案発表会での展示内容と、グループ発表、意見交換会（ワークショップ）の進め方について考える。

以上